

かぶうで、やま、もうなぎ、

アカガハの会の記録 2018.6.2

板に「小人」って書くの、こういうときはね。 6歳未満。

英語表記が結構。外国の人が(## ## @ 01:11:11)。戦前で。昭和11年です。11年だからGHQ、入ってきてないでしょう。でも結構、アメリカ風が強かった。チケット買う所に、下に英語で料金が書いてあって。

写真を撮ってる人とかってあんまり映ってないなと思って、なのでカメラ自体、まだ珍しいというか、普通だったらみんな。みんな、子ども、先、映しちゃうよね。そうですね。でも、8ミリフィルム自体がもの珍しい感じでこっちを見てるみたいなのではないですよね。確かに。だからなんかどういう感じで撮

→

→ってたんだろっていうのがすごく。すごい自然ですよね。自然に撮られてるから、あれ、何だろうみたいな、子どもとか指、指してそうだなと思ったんですけど。映り込むみたいなことのマナーみたいなのがあったのか。あったのかな。ちょっと奇妙な。すごい自然ですよね。あえて編集してカットして→

→るのかもしれないんですけど。それで映画を見る気分になるのかもしれない。確かに。撮影者、うまいってことは分かりますよね、これで。これ、娘だと思うよ。奥さんと。ちょこっと。それはなんでそういう思われるんですか。結局、音が入らないから、おまえ、こっち来て、映すからとかってやってるんじや

→

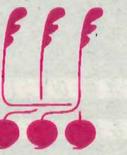
→ない? 今だと声が入っちゃうから。この子は絶対、そうだよ。こっち向けてって、ほら。あんまり興味なさそうな。カメラに。確かに。カメラを撮られた自分を見るって経験が1回でもあつたら、撮られてるってすごく自覚的になるような気がするんだけどね。

穴アーカイブ: an-archive
せたがやアカガハの会 vol.15 後半
日時: 2018年6月20日(水) 19:45 ~ 20:30
場所: 生活工房ワークショップルームA
参加者: 11名
世話人: 2名

キャプチャー画像: 上野動物園 / 1936(昭和11)年 / 上野動物園 / モノクロ / 7分

穴アーカイブ
an-archive

記録を残すという営みを、記録が残ないこと、すなわち、記録の不在（穴）から捉え直す反（an）アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。



せたがやアカバの会：The setagaya akabav circle
穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはくお問い合わせ>からご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌くかぶうずら、やまいもうなぎ>は、当会の断片的・公式活動記録。



映像が撮影された頃、全国各地で発行されていた地図。建物写真や店名、番地が詳細で目にも楽しいデザイン。上野公園は映像の20年ほど前には関東大震災が起き、被災された方が一堂に集まるような避難所の機能を持った場所でした。その後美術館や博物館が開館し、文化の中心地として発展していきます。

地図資料：大日本職業別明細図 東京交通社 1937(昭和12)年

洋画家で東京美術学校（東京藝術大学の前身）校長の和田英作と、小説家で婦人運動家の長谷川時雨が、街を行き交う女性を論評する、今風に言うとファッショントレンドのことをしています。「簡易服」とも呼ばれていた夏用のワンピース（アッパッパ）を着る女性について、長谷川は「今まで洋装の意味を知らなかった人が、洋装化していく入門第一歩」とい、庶民階層を中心とした新しい東京の風景だと評しています。一方和田は、アッパッパは西洋の寝巻きを想起させるので、往来では着ないではないと苦笑を呈しています。

出典：東京朝日新聞（朝刊） 1936（昭和11）年6月11日（木） 第6面



かぶうずら、やまいもうなぎ アカバの会の記録 2018 no.2
発行日：2018年8月23日

お問い合わせ：生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカバの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな）
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
<http://www.setagaya-ldc.net/>
企画制作：remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center